

技術概要書（様式）

※別紙2

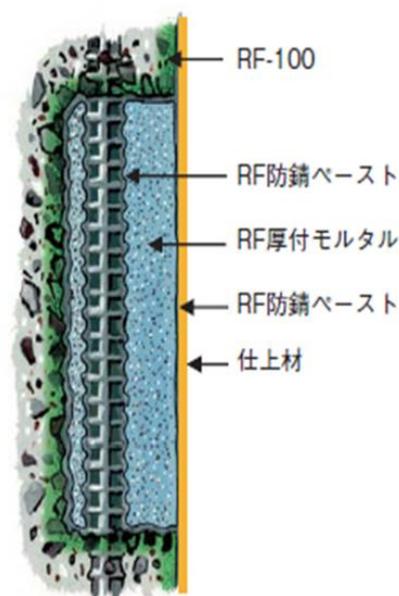
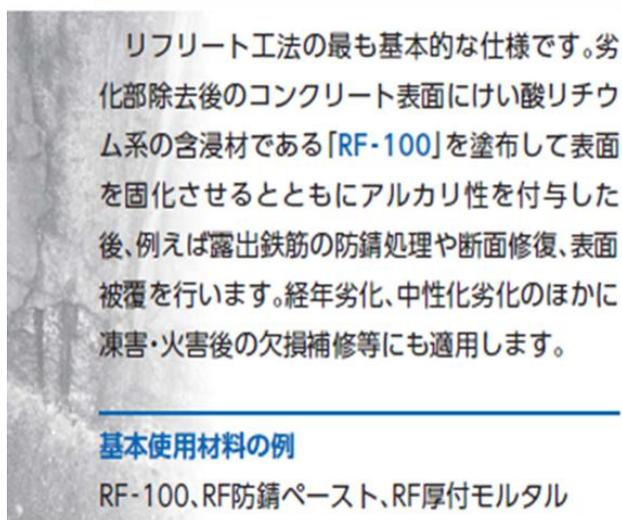
出展技術の分類	安全・防災 インフラDX 維持管理 環境 コスト 品質 （該当分類に○を付記）		
技術名称	リフリート工法	担当部署	九州・沖縄支部
NETIS登録番号	KTK-150007-A（旧登録）	担当者	日名子 克也（事務局）
社名等	リフリート工業会	電話番号	092-781-5331
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	<p>本工法は、1973年に開発。1976年に第一号物件（東京都庁第2庁舎改修工事）に採用された鉄筋コンクリート構造物の改修工法です。</p> <p>当時は、まさに建設ラッシュの時代。それでも、「将来、必ず維持保全が必要となる時代が来る。その時、社会に貢献すべき補修工法がなければならない。」という信念のもと開発されました。</p> <p>以後、40年以上に渡って鉄筋コンクリート構造物の維持管理に役立てていただいております。</p>		
	2. 技術の内容		
	<p>本工法は、化学的・物理的な処方を組み合わせた補修工法で、単に「はつって、埋め戻しする」ものではありません。調査に基づいた劣化要因や進行状況に併せた2種類の仕様を選択しつつ、構造物の特長に対応した断面修復材を組み合わせることで、合理的な補修を行うものです。</p> <p>本工法には、中性化対策の「RF仕様」と塩害対策の「DS仕様」があり、塗布型含浸材と防錆剤を含むポリマーセメント系材料を組合せて施工する工法です。事後保全でも、予防保全でも使用が可能な工法で、断面修復材は、構造物の特長、施工条件などで選択が可能です。</p> <p>また、表面保護工法と併せて適用することで耐久性の高い構造を構築することが可能です。</p> <p>本工法は、加盟会員による責任施工で、施工管理士の資格保有者が適切な管理を実施します。</p>		
	3. 技術の効果		
<p>第三者による評価の他、追跡調査による適用後の効果検証を実施しております。特に追跡調査は適用後20～30年経過した構造物を対象として実施しており、それらの構造物は現在でも供用されています。</p>			
4. 技術の適用範囲			
<p>中性化・経年劣化、塩害・凍害・火害等で劣化した鉄筋コンクリート構造物 （建築物、橋梁・橋脚、トンネル、水路、港湾施設、鉄道施設、文化財施設等）</p>			
5. 活用実績			
<p>40年に渡って、国内の様々な施設にて施工されています。</p> <p>建築物（戸建て、マンション、ビル、工場、文化遺産等） 橋梁・橋脚・トンネル（国道、県道、市町村道、高速道路） 水路（農水路、導水路、排水路） 港湾施設（建築物・護岸施設・棧橋） 鉄道施設（駅関連施設、鉄道橋、トンネル等） 文化財施設（世界遺産関連施設、重要文化財、文化遺産ほか）</p>			

リフリート工法の仕様

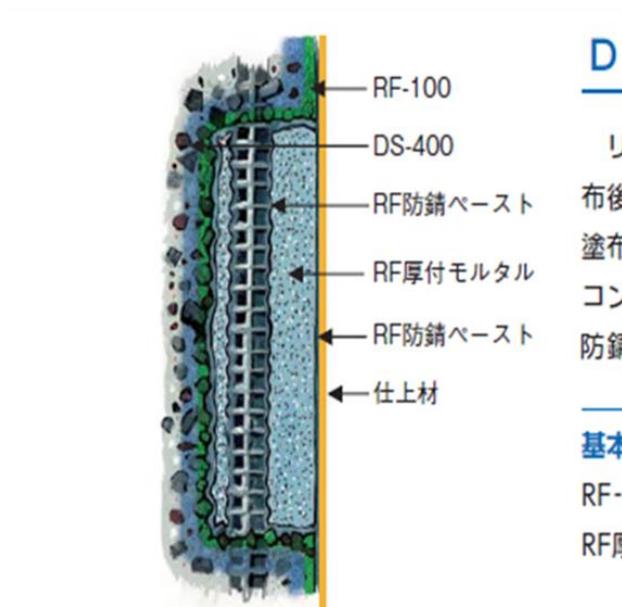
リフリート工法には、以下の2つの基本仕様があり、調査結果に基づき適宜選択します。

1. **RF仕様** 経年劣化、中性化劣化対策、凍害・火害後の修復等
2. **DS仕様** 塩害劣化やその他複合劣化対策や予防保全

RF仕様



RF仕様による中性化劣化補修



DS仕様

リフリート工法のもう一つの仕様。RF-100塗布後、さらに塩害対策として亜硝酸リチウム系塗布型防錆材「DS-400」を塗布して表面近傍のコンクリートを改質した後、例えば露出鉄筋の防錆処理や断面修復、表面被覆を行います。

基本使用材料の例

RF-100、DS-400、RF防錆ペースト
RF厚付モルタル

DS仕様による塩害劣化補修